

アカメガシワクダアザミウマを利用したアザミウマ類防除の検討

○岩本哲弥・本田善之・河村俊和¹⁾

山口県農林総合技術センター・¹⁾ 柳井農林事務所

「かおり野」は6月頃まで収穫可能なイチゴの品種で、春期(2~6月)はアザミウマ類等の防除を徹底する必要がある。しかし、化学農薬の使用回数を増やすと薬剤抵抗性発達を助長する恐れがあるため、アカメガシワクダアザミウマ(以下、アカメと略)を利用した春期のアザミウマ類防除について検討した。

平成27年2~6月に山口県山口市平川の現地ほ場(土耕)において、3月6日にアカメ成虫20,000頭/10aを放飼し、慣行防除区と共に約10日毎に200花のアザミウマ類虫数を調査した。その結果、4月下旬までは慣行防除区と同様に比較してアザミウマ類幼虫の増殖は抑えたが、その後は増加した。放飼時期が遅かったこともアザミウマ類が増加した要因と考えられた。そこで、平成28年3~6月に下関市玉司の現地ほ場(高設)において、2月17日にアカメ成虫20,000頭/10aを放飼し、前年と同様に調査を行った。その結果、慣行防除区と比較してアザミウマ類幼虫の増殖を5月中旬まで抑えた。5月下旬には施設外からの成虫侵入が多くなり、要防除水準以下に抑えられなかった。以上のことから、放飼時期は2月下旬が適していると考えられたが、施設外からの成虫侵入の抑制が課題として残った。

アカメの安定的な定着・増殖のために、蛹化場所の確認を平成27年2月~6月にセンター内の高設栽培施設において行った。2月25日に20,000頭/10aを放飼し、約10日毎に100花及び未着色果40果について、4月下旬及び6月下旬にクラウン20か所の寄生蛹数とイチゴ株元及び高設ベッド下に設置した培土入りトレイ内の蛹数を調査した。その結果、いずれの場所でも蛹が確認された。しかし、その数は少なく、主要な蛹化場所がどこかは判然としなかった。

表 アカメガシワクダアザミウマのアザミウマ類に対する防除効果(上:H28、下:H27)

区		2/17	2/26	3/7	3/16	3/25	4/4	4/14	4/22	5/2	5/10	5/18	5/31
アカメ放飼区	成虫	0	0	0	0	0	0	0	0	4	15	42	187
	幼虫	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	6	127
慣行防除区	成虫	0	0	0	0	0	16	3	7	12	2	1	12
	幼虫	0	0	0	0	0	0	0	2	9	0	0	1

薬散

薬散

区		2/17	3/2	3/13	3/20	3/30	4/9	4/20	4/28	5/8	5/18	5/27
アカメ放飼区	成虫	0	0	0	0	2	0	20	50	207	88	24
	幼虫	0	0	0	0	0	0	0	0	31	0	0
慣行防除区	成虫	0	0	1	1	3	2	19	49	16	3	10
	幼虫	0	0	0	0	0	0	4	15	0	0	0

薬散

薬散

薬散

注: 100花当たりアザミウマ類虫数。表下の「薬散」は調査直後に慣行防除区で薬剤散布を行ったことを示す。

但し、H27年の4/28と5/18については、アカメ放飼区も散布。

Study on control of Trips in strawberries utilizing *Haplothrips brevitubus* (Karny)

Tetsuhiro Iwamoto, Yoshiyuki Honda, Toshikazu Kawamura¹⁾

Yamaguchi Prefectural Agriculture & Forestry General Technology Center

¹⁾ Yanai Agriculture & Forestry Office